# 子ども食堂の活動実態と空間特性の研究
## ー名古屋市の子ども食堂を対象としてー

指導教員　加茂 紀和子　教授　　井上　真奈

## 1.はじめに

近年、子どもの貧困や孤食の問題が深刻化する中、子どもに安価で栄養のある食事や温かな団欒を提供することを目的とした子ども食堂が注目を集めている。子ども食堂は2012年に発足して以降わずか7年で全国に約3700ヶ所[※注1)]にまで急増しており、その活動は子どもへの食事支援にとどまらず、地域の高齢者や子育て親子などへ広がり、多世代が集まる地域の交流場所として期待されている。しかし今現在、子ども食堂に関する既往研究は前例が少なく、今後、地域の交流拠点として発展していくにあたり、居場所としての空間づくりの重要性が高まっている。

そこで本研究では、名古屋市の子ども食堂を対象に、運営実態と活動状況、空間構成を調査・把握することで、子ども食堂の担う役割とその空間特性を明らかにすることを目的とする。

## 2.研究方法

名古屋市の子ども食堂の実態を整理するためのweb調査(表1-調査1)を行い、その後より具体的な運営と活動実態を把握するためのアンケート調査を10ヶ所の子ども食堂を対象に実施した(表1-調査2)。また、空間計測調査・行動観察調査・ヒアリング調査・写真記録調査(表1-調査3)から、子ども食堂の空間構成と利用者とスタッフの交流状況、利用実態を明らかにし、分析・考察を行った。

## 3.名古屋市の子ども食堂の実態

「あいち子ども食堂ネットワーク」[※注2)]に掲載され、定期的に決まった実施場所で開催している47ヶ所をweb調査対象とする。運営主体、実施場所、開催頻度や日時、料金の調査結果を図1に示す。運営主体や実施場所、開催日時から、子ども食堂には様々な運営形態があることがわかる。運営主体は任意団体が最も多く、開催日時は平日の夜や土曜日の昼が多い。開催頻度は月に1回程度がほとんどで、料金は子どもが無料、大人が101～300円が最も多い。

## 4.子ども食堂の運営と活動実態

名古屋市内の47ヶ所の中から、1年以上定期的に開催し、参加者の条件(地域・年齢制限)がない、調査協力の得られた10ヶ所を対象に、運営と活動実態に関するアンケート調査を実施した。調査訪問対象の子ども食堂の概要を表2に示す。子ども食堂によって利用者数は様々で、101人以上が利用する#1、#2、#3、#4を【大規模型】、45~100人が利用する#5、#6、#7、#8を

表1　調査概要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査1 | 名古屋市の子ども食堂の実態調査 | | |
| 調査方法 | Web 調査・ヒアリング調査 | 調査期間 | 2019 年 7 月下旬～ 10 月下旬 |
| 調査内容 | 運営主体・実施場所・開催日時・開催頻度・料金 | | |
| 調査対象 | 47 の子ども食堂 ※注3) | | |
| 調査2 | 運営・活動実態調査 | | |
| 調査方法 | 運営者へのアンケート調査・ヒアリング調査 | | |
| 調査期間 | 2019 年 7 月下旬～ 12 月下旬 | | |
| 調査内容 | 運営概要・利用者の特性・活動目的と成果・活動内容・今後の課題 | | |
| 調査対象 | 10 ヶ所の子ども食堂 ※注4) | | |
| 調査3 | 空間構成と利用実態調査 | | |
| 調査方法 | 空間計測調査・行動観察調査・運営者へのヒアリング調査・写真記録調査 | | |
| 調査期間 | 2019 年 10 月下旬～ 12 月下旬 | | |
| 調査内容 | 空間構成・広さ・設備・什器・利用者とスタッフの行動と交流 | | |
| 調査対象 | 10 ヶ所の子ども食堂 ※注4) | | |

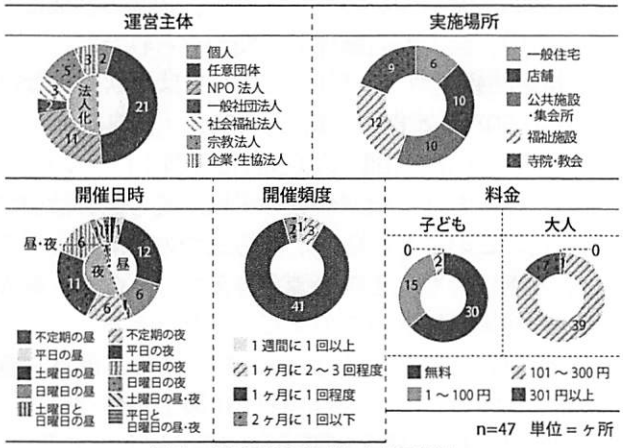


図1　名古屋市の子ども食堂の実態

表2　訪問調査対象の子ども食堂の概要

| 番号 | 子ども食堂名 | 法人 | 実施場所 | 開催日時 | 人数 | 規模 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| #1 | ソーネみんなでごはん | ― | 店舗 | 最終火曜日 17:00-19:30 | 235 | 大 |
| #2 | わいわい子ども食堂 | ― | 福祉施設 | 第 1 水曜日 17:00-19:00 | 165 | |
| #3 | マンナ MANNA 子ども食堂 | 宗教 | 教会 | 第 4 水曜日 17:30-19:30 | 130 | |
| #4 | 西福寺おかげさま食堂 | 宗教 | 寺院 | 第 2 金曜日 17:00-19:00 | 125 | |
| #5 | なかよしごはん | ― | 教会 | 毎月 7･17･27 日 17:30-19:00 | 65 | 中 |
| #6 | 子ども食堂@なかぶん | ― | 区センター | 第 3 土曜日 11:30-13:30 | 63 | |
| #7 | 心の子どもごはん | ― | 飲食店 | 第 1･3 土曜日 18:00-20:00 | 50 | |
| #8 | 子どもとつくる子ども食堂～さばんなかふぇ～ | NPO | コミュニティセンター | 第 2 土曜日 10:00-16:00 | 47 | |
| #9 | 子ども食堂猫 | ― | 集合住宅 | 第 3 日曜日 11:30-13:00 | 35 | 小 |
| #10 | ライフケアキッズ有松コミュニティ食堂 | 企業 | 福祉施設 | 第 1･3 火曜日 17:30-19:30 | 30 | |

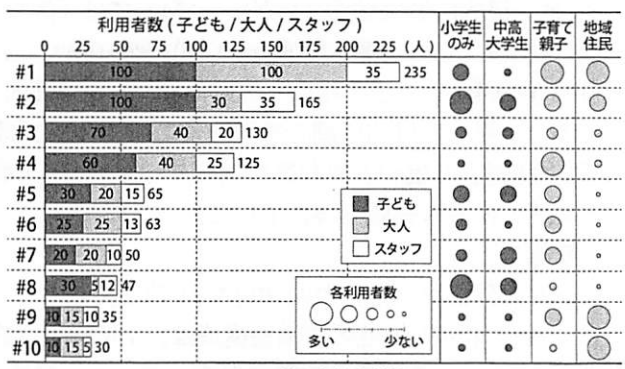


図2　利用者数と特性

A Study of Activity and Space on Children's cafeteria
: A Case Study of Children's cafeteria in Nagoya City

Mana INOUE

【中規模型】、44人以下が利用する#9、#10を【小規模型】に分類した。

### 4-1.利用者特性

利用者数の内訳と子どもと親以外の利用者の特徴を図2に示す。#2、#8は子どもの利用が多く、#1、#6、#7、#9、#10は大人の利用が多い特徴がみられた。また、#1、#4は子育て親子の利用が多く、#1、#2、#9、#10は地域住民の利用が多いことがわかる。

### 4-2.運営の活動目的とその成果の関係

子ども食堂の活動目的と活動成果[※注5)]の平均を図3に示す。活動目的は、0より高く意識している項目が多く、特に食事支援において他の支援項目よりも平均値が高い。活動成果は、〔11.子どもの食育〕〔12.子どもの学習支援〕〔14.悩み相談〕で0以下となり、あまり成果が実感できていないことがわかる。一方、交流や居場所づくりの項目では、運営者が活動目的として意識しているよりも、活動成果の平均が高く、多くの子ども食堂が、交流や居場所づくりの機能を果たしていると考えられる。

### 4-3.各子ども食堂の活動目的

各子ども食堂の活動目的を分析するため、主成分分析を行った。(図4) 第1主成分の軸を〈支援内容〉、第2主成分の軸を〈対象者〉と解釈した。分析結果より、#1、#2、#3は〈子どもの交流支援〉を、#4、#10は〈地域住民・親同士の交流支援〉を、#9は〈全利用者の食事と交流支援〉を、#7は〈親同士の交流支援〉を、#5、#6、#8は〈食事支援・相談支援〉を活動目的として意識している傾向がみられた。

### 4-4.子ども食堂の活動と取り組み

学習支援や相談の取り組みの有無を図5に示す。〔子どもの食育〕は中規模型と小規模型の子ども食堂で多く取り組まれており、〔子どもの学習支援〕は学習スペースを設けやすい大規模型の子ども食堂で多く実施される傾向がある。また、〔子どもの遊び・体験〕は、10ヶ所中8ヶ所と、多くの子ども食堂で取り組まれていることがわかる。

### 4-5.子ども食堂の活動成果

子ども食堂の活動成果を分析するため主成分分析を行った。(図6) 活動目的の主成分分析と似た結果が得られ、第1・2主成分の軸を〈支援内容〉〈対象者〉と解釈した。分析結果より#2、#3は〈子ども・地域住民の交流支援〉、#1は〈親子・地域住民の交流支援〉、#10、#9、#4は〈親子の交流支援〉に成果が出ている傾向がみられた。#5は〈食事支援・相談支援〉、#6、#7は〈親の相談支援〉、#8は〈子どもへの食事支援〉に成果が出ていると分類した。特に#8は子どもに対する活動成果が高く、#1、#2、#3、#4の大規模型の子ども食堂は、それぞれ利用者の特性によって対象は異なるが、交流支援で高い成果が得られている。

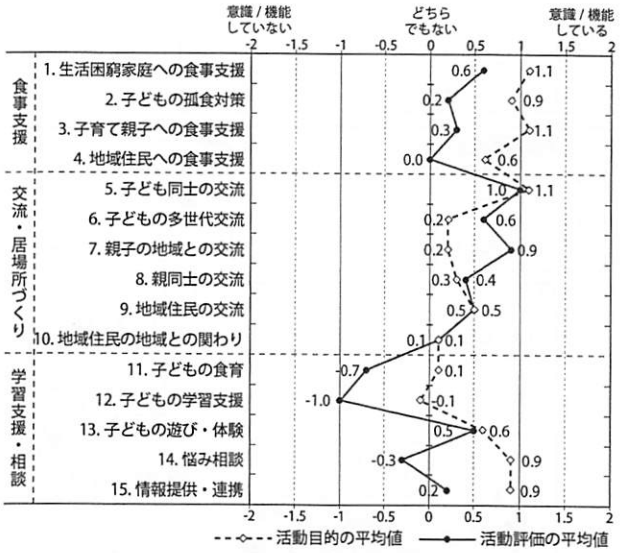


図3 子ども食堂の活動目的と活動成果の平均

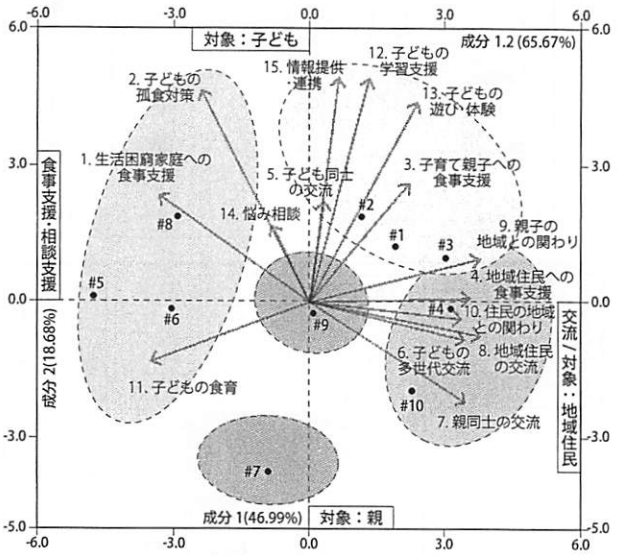


図4 子ども食堂の活動目的の主成分分析

| 取り組みの有無 | #1 | #2 | #3 | #4 | #5 | #6 | #7 | #8 | #9 | #10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもの食育 | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 子どもの学習支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| 子どもの遊び・体験 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 悩み相談・情報提供・連携 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ |

図5 学習支援・相談の取り組みの有無

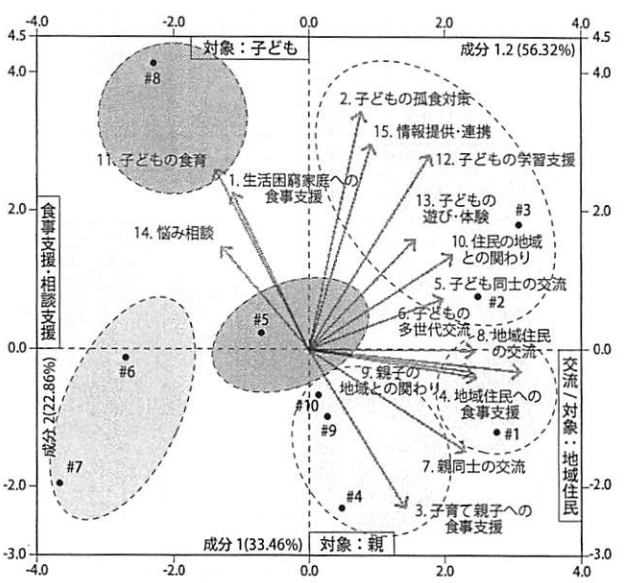


図6 子ども食堂の活動成果の主成分分析

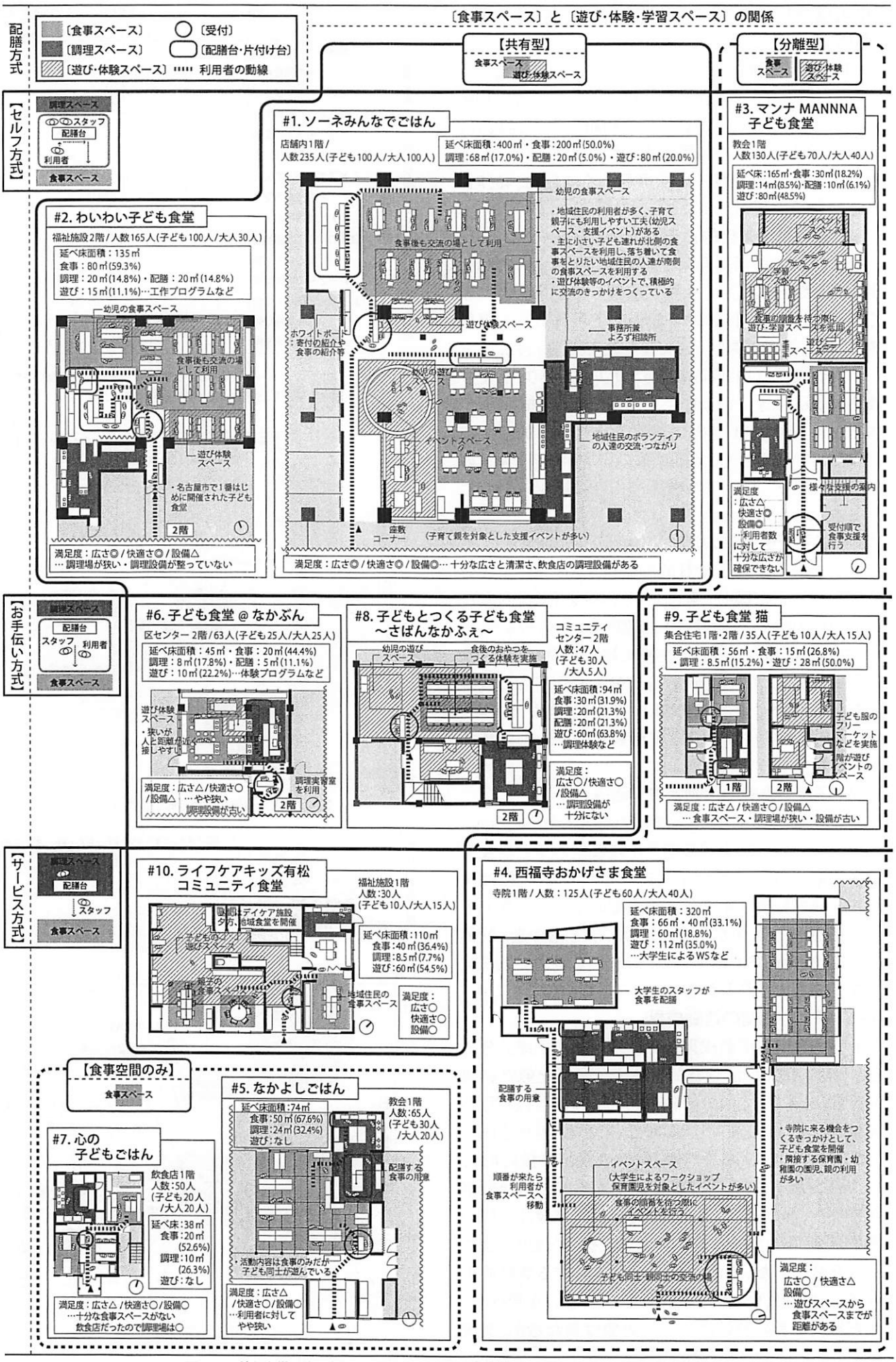


図7　子ども食堂の空間構成・食事スペースと遊び体験スペースの関係・配膳方式の違い

## 5. 空間構成と利用実態

子ども食堂の空間構成と利用実態について、空間計測調査、行動観察調査及びヒアリング調査を行い、【配膳方式】と【食事と遊び・体験スペースの関係】の違いを図7にまとめる。子ども食堂は主に〔食事スペース〕〔調理スペース〕〔遊び体験スペース〕と、〔受付机〕〔配膳台〕〔片付け台〕で構成されており、利用者ははじめに受付を済ませた後、【配膳方式】の違いによって、配膳台へ食事を取りに行くか、直接食事テーブルに向かうか、動線が異なることがわかる。食事後は、利用者が自ら片付け台へ運び、〔遊び・体験スペース〕がある子ども食堂では、より利用者同士の交流や情報交換が増え、地域の居場所として機能していると考えられる。

### 5-1. 空間構成と利用実態からみる配膳方式の違い

子ども食堂の配膳方式は、スタッフが配膳台に立ち、利用者にご飯を順番に盛り付けていく【セルフ方式】、スタッフと利用者が一緒にご飯を食事スペースまで運ぶ【お手伝い方式】、スタッフがご飯を利用者の食事スペースまで運ぶ【サービス方式】の3つに分類される。大規模型の#1、#2、#3では、広いスペースを利用して効率よくご飯を配膳する【セルフ方式】がとられ、#4では、食事スペースが2ヶ所に分かれ、調理スペースと食事スペースの間に配膳台を設ける空間がないため、スタッフがご飯を配膳する【サービス方式】がとられている。中規模型、小規模型の内、#6、#8、#9、#10では子どもの食育として【お手伝い方式】がとられ、#5、#7では食事スペースを出来る限り広く利用するため、配膳台を〔調理スペース〕内に設ける【サービス方式】がとられている。

### 5-2. 食事空間と什器

多くの子ども食堂が主に4～8人の食事テーブルのグループをつくっており、共食・交流の場として機能していると考えられる。食事スペースが十分に広い#1や#2では、幼児用のスペースを用意し、子ども同士や親同士の交流を促進させる工夫がみられる。

### 5-3. 食事スペースと遊び・体験スペースの関係

遊び・体験スペースの有無と食事空間との関係から、【食事空間のみ】と【分離型】【共有型】の3つに分類した。【分離型】の#3、#9、#4では、食事スペースと遊び・体験スペースが別空間になっており、食事の衛生面や遊びの安全面が考慮され、食事と遊びの時間区別ができている。また、限られた食事スペースに対し、遊びの空間が別にあることで、順番に利用者へ食事を支援することができ、遊びの空間で様々な活動が行いやすい利点がある。【共有型】の#1、#2、#6、#8、#10では、食事前後で、季節のイベントや体験プログラムを実施し、周りの子どもと一緒になって、遊び体験を楽しめる空間づくりが行われている。また、

| 規模 | 番号 | 利用者数 | 面積(㎡) | 食事スペース 面積割合(%) | 食事スペース 配膳方式 | 遊び・体験スペース 面積割合(%) | 遊び・体験スペース 分類 | 活動内容 食育 | 活動内容 学習支援 | 活動内容 遊び体験 | 活動成果 支援 | 活動成果 対象 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大 | #1 | 235 | 400 | 50.0 | セルフ | 20.0 | 共有 | | ○ | ○ | 交流 | 親子・地域 |
| | #2 | 165 | 135 | 59.3 | | 11.1 | | | ○ | ○ | | 子ども・地域 |
| | #3 | 130 | 165 | 18.2 | | 48.5 | 分離 | | ○ | ○ | | 子ども |
| | #4 | 125 | 320 | 33.1 | サービス | 35.0 | | | ○ | ○ | | 子育て親子 |
| 中 | #5 | 65 | 74 | 67.6 | | — | | | | | | 全利用者 |
| | #6 | 63 | 45 | 44.4 | お手伝い | 22.2 | 共有 | ○ | | ○ | 食事・相談 | 親子 |
| | #7 | 50 | 38 | 52.6 | サービス | — | | ○ | | | | 親子 |
| | #8 | 47 | 94 | 31.9 | お手伝い | 63.8 | 共有 | ○ | ○ | ○ | | 子ども |
| 小 | #9 | 35 | 56 | 26.8 | | 50.0 | 分離 | ○ | | ○ | 交流 | 親子・地域 |
| | #10 | 30 | 110 | 36.4 | サービス | 54.5 | 共有 | ○ | | ○ | | 親子・地域 |

図8　空間特性と活動成果の関係

親同士や地域住民同士で交流する場として期待できる。

## 6. 空間特性と活動成果

子ども食堂の空間構成と活動成果を整理するためクロス集計を行った。(図8) 大規模型では交流支援の成果があり、【共有型】の #1、#2 では食事スペース、【分離型】の #3、#4 では遊び体験スペースの面積の割合が高いことがわかる。中規模型は、適度な広さにより、スタッフが利用者を把握しやすく、食事や相談支援に成果が出やすい傾向がある。小規模型の #9、#10 では、地域住民の利用が多く、食事スペースだけでなく遊び・体験スペースを通して地域の居場所づくりが行われていると考えられる。

## 7. 結論

子ども食堂の活動実態と空間特性についての知見を以下にまとめる。子ども食堂は、多種多様な運営形態で開催され、利用者は親子に限らず、子育て親子や地域住民など多世代に広がっていることが確認できた。また、食事支援だけでなく、交流・居場所づくりにおいても活動成果がみられ、共食とともに交流の場として機能していることがわかる。大規模型の子ども食堂では、多くの利用者が交流でき、地域のつながりを広げる役割を担っており、中規模型や小規模型の子ども食堂では、利用者と運営側の交流がしやすく、子どもの食育として積極的にお手伝いをさせる子ども食堂もあり、食事支援や相談、食育に成果が出やすい傾向がある。

子ども食堂は、今後ますます箇所数を増やし多様に広がる中で、多世代の利用者が皆で食事テーブルを囲み、また遊びや体験の活動を通して、交流のネットワークを広げる地域の居場所としての空間づくりが重要となる。

【謝辞】本研究を進めるにあたり調査にご協力いただきました、子ども食堂の運営者の皆様に、心より感謝申し上げます。

【注】1) NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえが、全国のこども食堂地域ネットワーク等と合同で行った調査の結果を引用する。 2)「あいち子ども食堂ネットワーク」は、愛知県の中でこども食堂を運営している人たちが交流をし、こども食堂の輪を広げるために活動する連絡会である。名古屋市と連携し活動を行っている。 3) 調査 1 では、あいち子ども食堂ネットワークに載っている子ども食堂の内、定期的に開催され、開催場所が決まっていることが確認できた 47 ヶ所の子ども食堂を対象とする。 4) 調査 2 及び調査 3 では、調査 1 の 47 の子ども食堂から、1 年以上継続して開催しており、参加者の条件（地域や年齢など）が定められていない子ども食堂を対象とする。その中から、調査の協力が得られた 10 ヶ所を訪問した。 5) 農林水産省の「平成 29 年度食育活動の全国展開委託事業」において、全国の子ども食堂を対象としたアンケート調査の中で、活動目的と活動成果の質問項目の中から引用し、本研究のアンケート項目を作成した。